

夕刊 新報 第四十二日 發行 日十二月四年八和 日休日翌日祭曜日

詩南草 歌壇評其他

三 美崎 一郎

○吉田 甫
た作歌態度を見るにつけ筆
者に頼りて取つるものがあ
る。今更色褪せし友誼でも
あるまい、と小山田滋氏が
叱られさうである。

新歌壇

小山田 滋選
小川 郷 松 崎 幽 泉
梅早き湘南の春を告げしぬ、逢はまはし
き友の許より

○佐々木 顯
静物のいばらの露面浮
花びらは雨に濡れつ
空白みゆく

青い灯

八幡 秋月
結二は笑ひながら其の煙
りを吐いた

○朝さむや床にぬくもるひとときははろ〜鳥
のなく聲きこゆ
○水の上に油ひきつゝ客船は雨はれのどつくを
静かに出でぬ

○梅早き湘南の春を告げしぬ、逢はまはし
き友の許より
○なが〜と野邊に寝そべり雲雀なく、空を仰
ぎて眼をつぶり居り

○戸を繰ればのつと射しける旭を受けて、籠の
目は高音張りなり
○朝さむや床にぬくもるひとときははろ〜鳥
のなく聲きこゆ

○梅早き湘南の春を告げしぬ、逢はまはし
き友の許より
○なが〜と野邊に寝そべり雲雀なく、空を仰
ぎて眼をつぶり居り

○梅早き湘南の春を告げしぬ、逢はまはし
き友の許より
○なが〜と野邊に寝そべり雲雀なく、空を仰
ぎて眼をつぶり居り

拈華微笑

赤錢に交つて紙
出人搜索、旅費
是非實現し度い
幣三枚
萬用足りる聲陽
のが複雑骨折
物騒な天候。今
日も祈る吹くな
暴行、検束、家
降るな

私に力一ぱい蒲團の襟を
掴んでゐた
石ころはまだ冷いよ
石ころはか〜くに凍て
つくよ
もう路地で焚火は止めや
う

木の枝々がむせぶから。
つばみばつちりつとつばみ
春はまた浅いゆゑ春はま
だ浅いゆゑ
枝々は微とひろがり
早春の陽のうららかに
小松菜の柔い莖よ
今朝もまた
しみじみ舌によれるよ
この舌によれるよ

最後一言、詩南草の解
体は終刊號の聲明書に明か
であるが、立派に終刊號を
出して解する等々うた易
く出来ることではない。片
寄君が自ら進んで大同團結
への念願が然らしためにも
のである。やがて颯爽たる
姿を以て世に出やうとして
ゐることを記して筆を止め
やう。暴言多謝。

或る春の朝
川口 直樹
ソファに凭つた戀人の肩
そつと手を掛けると
彼女は愕きもしないで
私の手に接吻した
紅い唇の中に覗く白い齒
眼が微笑む……
瞬間、私の頬は
冷たい彼女の毛髪に觸れ
た

春の朝
唐 花
物うげに若葉が光るゆ
く春の、雑木林に鳴が
鳴いてる
後藤 史郎

影！
感おして遂に熱心な天主教
信者となつた、今猶ほかく
るのだと或る神の派の哲學者
が主張してゐる「亡き魂」
の引合せなどいふと甚
成やうに鶴屋南北時代のせり
ふめて來るが近世北米の
たりに人間と幽霊との交通
をするスピリチュアリズムと
普く世に知れ渡つてゐる。か
い術を出來て、その伸縮に
を商賣にする取次業が現は
れたらうであらうから、靈
が人と人とを引合せるなど
は何でもないかも知れない
お蝶と澤との間に起つた
奇遇は即ちそれである、龍
馬の亡き魂が導いたのであ
らう、と無理に不思議がる
と猶面白くなる

お蘭陀お蝶
渡邊 歌作
(305)
布施長春書
『室しうごさるかの、心配
はござらぬか』
澤は喃んだ水を吐戻して
『そ、それ程までに、龍馬
氏の死をいたみなる其許
はよも尋常の交遊ではござ
るまい、コレ早く仔細を
話してください』
『と被仰らるも、こ、これ
が話したいさすに居られ
まうか、私は龍馬さまと
二世を契つた白川のお蝶で
ございます』
言了るが早いか、わつと
泣いて突伏した
『や、や、では其許が……
あ、お、お、お蝶ごの
はははは……』
澤は喫驚して膝を打つた
折柄、物干の上に黒い人
はははは……』

お蘭陀お蝶
渡邊 歌作
(305)
布施長春書
『室しうごさるかの、心配
はござらぬか』
澤は喃んだ水を吐戻して
『そ、それ程までに、龍馬
氏の死をいたみなる其許
はよも尋常の交遊ではござ
るまい、コレ早く仔細を
話してください』
『と被仰らるも、こ、これ
が話したいさすに居られ
まうか、私は龍馬さまと
二世を契つた白川のお蝶で
ございます』
言了るが早いか、わつと
泣いて突伏した
『や、や、では其許が……
あ、お、お、お蝶ごの
はははは……』
澤は喫驚して膝を打つた
折柄、物干の上に黒い人
はははは……』

お蘭陀お蝶
渡邊 歌作
(305)
布施長春書
『室しうごさるかの、心配
はござらぬか』
澤は喃んだ水を吐戻して
『そ、それ程までに、龍馬
氏の死をいたみなる其許
はよも尋常の交遊ではござ
るまい、コレ早く仔細を
話してください』
『と被仰らるも、こ、これ
が話したいさすに居られ
まうか、私は龍馬さまと
二世を契つた白川のお蝶で
ございます』
言了るが早いか、わつと
泣いて突伏した
『や、や、では其許が……
あ、お、お、お蝶ごの
はははは……』
澤は喫驚して膝を打つた
折柄、物干の上に黒い人
はははは……』

お蘭陀お蝶
渡邊 歌作
(305)
布施長春書
『室しうごさるかの、心配
はござらぬか』
澤は喃んだ水を吐戻して
『そ、それ程までに、龍馬
氏の死をいたみなる其許
はよも尋常の交遊ではござ
るまい、コレ早く仔細を
話してください』
『と被仰らるも、こ、これ
が話したいさすに居られ
まうか、私は龍馬さまと
二世を契つた白川のお蝶で
ございます』
言了るが早いか、わつと
泣いて突伏した
『や、や、では其許が……
あ、お、お、お蝶ごの
はははは……』
澤は喫驚して膝を打つた
折柄、物干の上に黒い人
はははは……』

お蘭陀お蝶
渡邊 歌作
(305)
布施長春書
『室しうごさるかの、心配
はござらぬか』
澤は喃んだ水を吐戻して
『そ、それ程までに、龍馬
氏の死をいたみなる其許
はよも尋常の交遊ではござ
るまい、コレ早く仔細を
話してください』
『と被仰らるも、こ、これ
が話したいさすに居られ
まうか、私は龍馬さまと
二世を契つた白川のお蝶で
ございます』
言了るが早いか、わつと
泣いて突伏した
『や、や、では其許が……
あ、お、お、お蝶ごの
はははは……』
澤は喫驚して膝を打つた
折柄、物干の上に黒い人
はははは……』

お蘭陀お蝶
渡邊 歌作
(305)
布施長春書
『室しうごさるかの、心配
はござらぬか』
澤は喃んだ水を吐戻して
『そ、それ程までに、龍馬
氏の死をいたみなる其許
はよも尋常の交遊ではござ
るまい、コレ早く仔細を
話してください』
『と被仰らるも、こ、これ
が話したいさすに居られ
まうか、私は龍馬さまと
二世を契つた白川のお蝶で
ございます』
言了るが早いか、わつと
泣いて突伏した
『や、や、では其許が……
あ、お、お、お蝶ごの
はははは……』
澤は喫驚して膝を打つた
折柄、物干の上に黒い人
はははは……』

北海屋の 馨城名物 糯米製
進物用 ボール燻入 (小函) 二十錢 入五十錢
本品は消化吸収順ルヨク病人、産婦、老人、幼児ニ好適ナル食物タルハ勿
論ビクニツク、運動、旅行等ニテ疲勞ノ際之ヲ食スレバ直チニ元氣回復ス
ル事妙ナリ。

市原醫院
(入院隨意) 電話二一四番
内科 小兒科 市原卯太郎
外科 一般、婦人科 市原陸郎
外科 梅毒、淋疾 市原三三男
平町田町本通

生花教授
池ノ坊流 生花を懇切丁寧に御教授いたし
ます。お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤 まつ の

有給社員招聘
年齢 二十五才以上
五十才迄
經驗の有無不問ハズ奮闘ノ士ヲ望ム
希望者ハ履歴書送附アリテ面接時日ハ
通知ス
有隣生命保險株式會社
平出 張所々長
鈴木 健 司
平町大町八番地

鈴木醫院
日本醫學院醫學士 鈴木正男
齒科 口腔 外科 鈴木喜政
下谷區入谷町二九一
入谷改正通り東交番前

高久病院
平町田町
耳鼻咽喉科專門
日本醫學院醫學士 鈴木正男
齒科 口腔 外科 鈴木喜政
下谷區入谷町二九一
入谷改正通り東交番前

新製品發賣!!!
コーヒー通待望のコーヒー……!!!
ゴジヤパ 本場コーヒー三種配合純立
グアテマラ ……14封かん入三十五錢 味覺満點
グアテマラ ……12封かん入七十錢
香味本場の本場録茶と
召し上がれ……!!!
電三九六番
香園 大勝園
石城酒造
組合主催 喇酒會

北海屋製菓部
平町字二丁目 電話二八八番
市原醫院
(入院隨意) 電話二一四番
外科 醫學博士 渡部義夫
小兒科 渡部さい
平町田町大通り (電話二七七)
渡部 外科
(入院隨意)
新製品發賣!!!
コーヒー通待望のコーヒー……!!!
ゴジヤパ 本場コーヒー三種配合純立
グアテマラ ……14封かん入三十五錢 味覺満點
グアテマラ ……12封かん入七十錢
香味本場の本場録茶と
召し上がれ……!!!
電三九六番
香園 大勝園
石城酒造
組合主催 喇酒會
優等白鳥
入選
長の日本店
販賣店
平町二丁目 (電話四六番)

